

北海道地区 王座に関する規約

1. エントリーと主将会議に関して

- 1-1. 毎年、テニスリーグの開催前に主将会議を行い、これを本大会の最終議決の場とする。
- 1-2. エントリーは主将会議の出席をもって行うものとし、無断で欠席した大学のエントリーは受け付けない。やむを得ない事情で出席できない大学は、その事情を幹事長、又は副幹事長に前もって連絡すること。その場合、出席した全大学からエントリーを認められたときのみエントリーできるものとする。また、遅刻・欠席した大学は会議における議決権を失う。
- 1-3. 主将会議での議題は下記の通りとする。
 - ① 注意事項について
全出席校で統一して“3.王座ルール規則”が守られるように確認するために話し合う。
 - ② 6部について
6部については数ブロックに分けて、各ブロックの1位でトーナメントを行う。その優勝校を6部1位とし5部最下位校と入れ替え戦を行う。6部のブロックについては地域性を考慮し、主将会議にてそのブロック分けを行い、コートに関しては前年度の順位を考慮し決定する。
トーナメントの位置は主将会議で決定する。
 - ③ スケジュールについて
スケジュールについては試合期限を設け、それ以降は無効とする。(試合を拒否する大学の棄権負け)
各部内の対戦・各入れ替え戦は9月末日を最終期限とし、主将会議にてそのスケジュールを決定する。尚、雨などによるスケジュールの変更は認めるが、あらかじめそういった事態を考慮しスケジュールを決めること。
 - ④ 結果報告について
2部以下の試合・各入れ替え戦については、勝利校が学連(hstahstahsta@gmail.com)に結果報告しなければならない。その際、学連ホームページの王座 Official Score Sheet を用いること。期限は各試合終了後最初の水曜日19時とする。なお、結果報告期限までに勝利校が結果報告義務を果たしていない場合、当該試合において、勝利校が棄権負けしたとみなす。
 - ⑤ その他
各部ごとに別れて審判、ボーラー、応援などについて話し合う。

2. オーダーに関して

北海道学生テニスリーグに出場する大学は、以下に定めるオーダー規約に従いオーダー順位を決定しなければならない。

2-1. シングルス 以下の優先順位に従うものとする

- ① 本年度学生テニストーナメント大会優勝者
- ② 本年度学生テニストーナメント大会本選出場者（上位の順）

*尚、前年度インターハイ出場者は、学生テニストーナメント大会の32本と同等とみなす。

*同資格の場合 さらに以下の優先順位に従う。

前年度学連ランキングのランク順(※)

*ラッキールーザーとして学生テニストーナメント大会本戦に出場し、1回戦を敗退した選手は予選敗退者とみなす。なお、ラッキールーザーとして同大会の本戦1回戦を勝利し、2回戦以降に進出した場合、学生テニストーナメント大会での最終結果を用いる。

以上の項目該当者以外は、各校の良識ある判断に任せる。

2-2. ダブルス 以下の優先順位に従うものとする

- ① 本年度学生テニストーナメント大会優勝ペア
- ② 本年度学生テニストーナメント大会出場ペア（上位の順）

*尚、前年度インターハイ出場ペアは、学生テニストーナメント大会の男子は16本、女子は8本と同等とみなす。

◎ペア組み替えの場合 以下の規則によりランクを決定し比較する。

本年度学生テニストーナメント大会本戦出場者同士の場合、2人のランクの平均を取る。（予選選手、出場していない選手は、男子は64、女子は32扱いとする）

*この部分は複雑なので以下にすべてのパターンを掲載する。

- ① WとFのペア
- ② Wと4のペア、 FとFのペア
- ③ Wと8のペア、 Fと4のペア
- ④ Wと16のペア、 Fと8のペア、 4と4のペア
- ⑤ Wと32のペア、 Fと16のペア、 4と8のペア
- ⑥ Wと64のペア、 Fと32のペア、 4と16のペア、 8と8のペア
- ⑦ Fと64のペア、 4と32のペア、 8と16のペア
- ⑧ 4と64のペア、 8と32のペア、 16と16のペア

- ⑨ 8と64のペア、16と32のペア
- ⑩ 16と64のペア、32と32のペア
- ⑪ 32と64のペア
- ⑫ 64と64のペア 上記の優先順位に従う。(出場していない選手は予選選手と同等) *同資格の場合 さらに以下の優先順位に従う。

- 1) 本年度学生テニストーナメント大会における実績を持ったペアと、組み替えにより同資格になったペアとでは、前者を上位にする。
- 2) 1)によっても決定しない場合は前年度学連ランキング(※)の合計ポイント順に従う。

*ラッキールーザーとして学生テニストーナメント大会本戦に出場し、1回戦を敗退した選手は予選敗退者とみなす。なお、ラッキールーザーとして同大会の本戦1回戦を勝利し、2回戦以降に進出した場合、学生テニストーナメント大会での最終結果を用いる。

以上の項目該当者以外は、各校の良識ある判断に任せる。

※前年度学連ランキングとは、男子シングルス10位まで、男子ダブルス・女子シングルス・女子ダブルスそれぞれ5位までを指し、それ以下の順位の選手(組)に関しては、同順位として扱う。

2-3, オーダー交換

ダブルスの試合開始前、ダブルスの全試合終了後シングルの試合開始前にオーダー交換を行う。シングルのオーダー交換は、ダブルスの全試合が終了後直ちに行うこととする。また、シングルのオーダー交換の際に、オーダーの書き直しを行う場合はコートレフェリーに伝え、理にかなった時間でシングルのオーダー交換の時間を遅らせることが可能である。また、出場する選手は必ずオーダー交換時にサーブライン上に整列することを義務とする。また、出場しない選手・部員に関して、後列に整列するかは各大学に任せるものとする。

- ・オーダー交換時に服装規定に反する整列は認めない。
- ・オーダー交換後の各大学のミーティングで試合開始時刻が遅れることは認めない。
- ・オーダー交換時に整列することができるのは部長・監督・部員・マネジャーとする。

2-4, オーダーについて

式次第時に、学連提出用と相手校提出用の2枚を用意し、整列する。両校主将挨拶時に相手校提出用は相手校へ、学連提出用については式次第を行っている学連にその場で手渡す。

- ・オーダー用紙はコピー可能。(同じサイズのみ)
- ・オーダー用紙の様式は、当連盟指定の用紙に毛筆またはペン書き(黒または青)

とする。

名前はフルネームで記入すること。また、必ず横に振り仮名も記入すること。

訂正箇所（修正液不可）には2重線を引き、部印がそれにかかるように押すことにより訂正を認める。

2-5, オーダー、オーダー用紙のミスへのペナルティについて

(1) オーダー規約に基づかない順位で発表されたオーダーに関しては

- ・ その誤りのあった対戦を没収(単複どちらのオーダー交換時も共通)

例) 本来、A・B・Cの順で固定であったオーダーを、誤ってA・C・Bの順で提出し相手校に提訴された場合 →C・Bの試合を没収、提出した大学側の2敗となる

注：オーダー規約違反に関しての提訴は、複・単共にその試合の終了までとする。

注：主将・主務・質疑権所有者以外からの提訴は受け付けない。

注：オーダー規約を確認するための過去の地方大会の資料の貸し出しは学連からは行わない。

(2) 記入ミスについて 例)部印がない、氏名・大学名の漢字が間違っている場合など(違う大学名が書いているなどは除く)

→特に罰則はない

(3) オーダー交換時に学連提出用、相手校提出用オーダーのどちらかがない、またはどちらもない場合

→そのオーダー交換における該当試合をすべて没収とする。

3. 王座ルール規則

3-1, 出場資格について

3-2, 試合形式について

3-3, 順位決定について

3-4, ボールについて

3-5, ウォーミングアップ

3-6, 審判について

3-7, ルール・コードオブコンダクト

3-8, 服装について

3-9, トイレットブレイクについて

3-10, レストの時間について

3-11, ベンチコーチについて

3-12, 質疑権所有者について

3-13, ペナルティの基準について

3-14, メディカルタイムアウト・メディカルトリートメントについて

3-15, 物資の供給

3-1, 出場資格について

当連盟において登録年度数及び在籍年度数4年以内ならば出場できる。ただし、医学部系大学に関しては登録年度数及び在籍年度数6年以内、短期大学は2年以内とする。

3-2, 試合形式について

試合形式はすべての試合において、The Best of 3 Tie Break Set Match とする。

男子 シングルス 6本 ダブルス 3本

女子 シングルス 3本 ダブルス 2本

男子複第3位から順次第1位、その後男子単第6位から順次第1位とする。女子複第2位から順次第1位、その後女子単第3位から順次第1位とする。尚、試合の進行状況によってレフェリー、両校主将、主務の話し合いにより試合順序を変更することを認める。

3-3, 順位決定について

勝点と同じ場合は総勝ポイント数の多いチームを上位とし、勝点も総勝ポイントも同じ場合には、総失セット数の少ないチームを上位とする。それでも順位が決定しない場合は、該当チームの該当試合の勝敗により決定する。

3-4, ボールについて

使用ボールはDUNROP FORTとし、基本的に2球使用である。ボールチェンジについて、1部王座では「9-11」とし、2部以下では各部の話し合いを基に「9-11」「ファイナルボールチェンジ」のいずれかとする。又、タイブレークは1ゲーム分として換算し、ロストに対しては、当該ゲーム数に応じてニューボール、もしくはユーズドボールを紛失した個数分だけ補充する。

3-5, ウォーミングアップ

1部王座において、各出場大学には朝のプラクティスコートが振り分けられ、30分間の練習を行うことができる。コート・時間の詳細についてはオーダーオブプレーを参照すること。

試合開始前のコートでのウォーミングアップは5分以内とする。ただし、雨天中断や日没による延期後の試合に関しては、「JTAルールブック」に則り、適切な時間でのウォームアップを行い、試合を再開する。

3-6, 審判について

審判方法は主将間の協議によって決定する。一般的に上位校が司会進行、奇数試合の主審をすることとする。

3-7, ルール・コードオブコンダクト

ルールは、「JTA テニスルールブック」の最新刊のテニス規約に基づき、コードはJTAルールに基づく。

3-8, 服装について (※)

- (1) 選手の服装はテニスウェアであれば色の指定はない。しかし、試合中のウォームアップの着用、トレーナーの着用は認めない。ただし試合中のベスト、セーター、カーディガンの着用は認める。
 - (2) ロゴは「JTA テニスルールブック」に基づき、違反ロゴに対するテープの使用は認めない。
 - (3) 大学名の商業ロゴについては団体戦のみ大きさの規定はない。
 - (4) インナーの着用 インナー(コンプレッションウェア)の着用は「JTA テニスルールブック」に基づく。ただし、医師の診断書の提出があった場合、大会レフェリーの判断次第では膝丈以上の長さのインナーの着用を認める場合がある。
- ※ 「北海道地区 王座服装に関する補足」も参照。

3-9, トイレットブレイクについて

(男子) 1試合につきシングルス1回、ダブルス1組2回、トイレを理由に原則としてセットブレイク時に理にかなった時間内でとることができる。

(女子) 1試合につきシングルス2回、ダブルス1組2回、トイレ又は着替えを理由に原則としてセットブレイク時に理にかなった時間内でとることができる。

(ベンチコーチ) 選手と同じタイミングでトイレットブレイクをとることができる。しかし、トイレットブレイク中におけるコーチングは警告の対象とし、トイレットブレイク中に観客等の第三者と話した場合はベンチコーチに戻ることができない。又その後のベンチコーチの補充もできない。

注：ウォームアップ中も試合中と同様、回数に数える。

注：トイレットブレイクにはコートレフェリーがついていく。

注：トイレットブレイク終了後の余りの時間はレストとして使用できない。

3-10, レストの時間について

レストの時間についてはダブルスからシングルスを行う為、以下の通りと定める。

- 試合時間
1. 60分未満 : 30分
 2. 60分以上 90分未満 : 40分
 3. 90分以上 : 60分

注：レストの時間はシングルの試合の有無に関わらず、ダブルスを行った選手全員に確認する。

3-11, ベンチコーチについて

エンドチェンジ間の90秒、セットブレイク時の120秒間にベンチコーチから選手はコーチングを受けることができる。(各セット1ゲーム終了後、またタイブレイク時のエンドチェンジ間ではコーチングをしてはならない。) ベンチコーチはベンチコーチ登録されている者が行うことができる。ベンチコーチ登録は部長、監督を含め3名以内とし、大会本部にて本人によって登録するものとする。ベンチコーチの交代は自由とし、交代の際は主審並びにコートレフェリーに伝えた後入ることができる。又交代のタイミングはコーチングができるタイミングとする。

注：ベンチコーチの警告は1回目注意、2回目警告、3回目退場とする。又、退場した場合その試合のベンチコーチは認められない。

注：ベンチコーチは必ずテニスウェア、テニスシューズを着用すること。

3-12, 質疑権所有者について

質疑権は、各大学主将・主務の一方にある。ただし主将主務両名が試合やベンチコーチ等でコート内に入り不在の場合は、他の部員が代理として質疑権所有者になることを認める。

各主将・主務は試合前、および試合進行中に質疑権の所在をコートレフェリーに明らかにしなければならない。

* 質疑権所有者：試合進行上でコートレフェリー(レフェリー)に質疑する権利がある。しかしジャッジ等の事実問題でもめた際にはコートに入ることはできない。

* 選手：主審にそのプレーに対する判定に質疑することができるが、レフェリー(コートレフェリー)に対して、抗議することはできない。ジャッジの最終決定権は主審にあり、それに対して質疑する権利はあるが、抗議する権利はない。

3-13, ペナルティの基準について

JTA 公式ルールブックのコードオブコンダクトに準ずる。

◎野次などの不正な応援に対するペナルティ

選手のプレーを妨害する応援や、他人に不快感を与える応援については、主将・主務・質疑権所有者の提訴があった場合、コートレフェリー、又はレフェリーの判断でチー

ム戦での妨害応援(パルチザンクラウド)を決める。

又、限度を明らかに超えていると判断した場合は、提訴がない場合もペナルティを課す場合がある。

ペナルティについては、以下の通りとする。

1回目：警告

2回目：応援拍手のみ

3回目：当該コートのみ応援禁止(このペナルティはその対戦の間のみとする)

4回目以降：全コート応援禁止(このペナルティはその対戦の間のみとする)

以上の注意・警告を与えられてもなお良識を書くとは判断されるような応援が続く場合には、学連内で会議を行い、新たな罰則を科す可能性もある。

注：OB・OG、その他の方の応援もその大学の応援としてみなすので、各大学が責任を持って説明を行うこと。

注：道具(太鼓・メガホン・旗など)を使っての応援は一切禁止とする。

3-14, メディカルタイムアウト・メディカルトリートメントについて

(1) メディカルタイムアウト

試合中(ウォームアップを含む)の怪我や体調不良のため、トレーナーの応急手当が必要な場合、チェアアンパイアを通じて、トレーナーを要求することができる。原則として、次のエンド交代時、セットブレイク時にメディカルタイムアウト(MTO)をとることができる。緊急を要する場合には直ちにMTOをとることができる。

MTOはトレーナー又はドクターの診察が終了し、実際に手当を開始した時に始まる。状況によっては、コート外でMTOが取れる。MTOは原則として3分を超えてはならない。

1部位の症状につき1回のメディカルタイムアウトが取れる。熱中症に関する症状は、1試合につき1人1回だけMTOが取れる。怪我の症状が他の部位にも影響して発症した場合は、(同時に2カ所以上で発症した怪我でも、関連性があるもので原因は一つだと判断されれば、全体として一つの怪我とみなされる。

筋痙攣の場合は、選手はエンド交代時又はセットブレイクの時間内に限り処置を受けることができる。筋痙攣の処置でMTOは与えられない。

同時に2カ所以上に怪我を負った場合は、あるいは体調が悪くなって同時に怪我もした場合は、レフェリーの許可を得れば、2回続けてMTOを取れる。ただし、トレーナーは2回連続のMTOを取るかどうかを1度の診察で判断しなければならない。

(2) メディカルトリートメント

選手はエンド交代時(90秒)、セットブレイク(120秒)の時間内に手当を受けたり、ドクターから医薬品を受け取ったりできる。MTは1試合につき部位にかかわらず2回までならMTOの前でも後でも取ることができ、その2回は連続するエンド交代時でなくても良い。ただし手当のできない症状の場合には、メディカルトリートメントは適用されない。

(3) MTOとMTの併用について

MTO、MT、トイレットブレイクに関しては、一回のエンドチェンジもしくはセットブレイク時にどれか一つのみを選択するものとする。(トイレットブレイクはセットチェンジ時のみ)

Aチームがセットブレイク時MTOもしくはトイレットブレイクを取り、BチームがMTを取ったとする。この際に、AチームのMTOもしくはトイレットブレイクがMTの時間内に終わらなかったとしても、BチームのMTがAチームのMTOまたはトイレットブレイクに合わせて処置時間が延長されることはない。

→チェアアンパイアは、MTに対し、60秒もしくは90秒でタイムをかけることとする。

3-15. 物資の供給

物資の供給は、必ずコートレフェリーを介してコート内に供給すること。

4. 王座進行予定

1部王座の進行予定については、基本的に以下の通りとする。何らかの変更があった際には、学連より速やかに連絡する。

<初日>

8:30 主将会議

9:00 開会式

9:20 30分練習

9:50 準備でき次第オーダー交換

<2日目以降>

8:30 主将会議

9:00 30分練習

9:30 準備でき次第オーダー交換

この「地区王座に関する規約」は「全日本学生テニス連盟ルール規則」に準じて作成されたものである。

以上